



# 焼酎に込めた 故郷への思い 海陽中学校

島立ちへの思い

濱田ほのか

甌島は、自然が豊かで地域の人々が温かく笑顔が絶えない島です。夏休みには、みんなで海で泳いだことを覚えています。

海陽中学校の良いところは、少人数のため、先生方が生徒一人一人に向き合っていてさまざまなことを教えてくださった

こと、自然と触れ合う授業がたくさんあったこと、全学年が先輩後輩関係なく、仲が良かったことなどたくさんあります。運動会では小学生と地域のひと協力したことも思い出の一つとして残っています。その中でも一番の思い出は、先生方と生徒が協力して、焼酎芋を作れたこと。完成した時はとても感動しました。吉永酒造の方々が思いを込めて造って下さった焼酎を20歳になつて飲むことを今から楽しみにしています。

島から離れることは、とても悲しいですが、今まで島で学んできたことを生かす時が来たと思うとワクワクもします。これから自分のことは全て自分でしなければいけません。不安ですが、これも将来に向けての第一歩だと考え、頑張ろうと思います。



海陽中学校3年生が育てた  
サツマイモで造る  
吉永酒造の焼酎  
それが「甌島journey」

島立ちをする子どもたちのために何か残してやりたいという思いから、海陽中学校では、2年前から地元酒蔵「吉永酒造」と協力して、子どもたちが育てたサツマイモを使用した焼酎を造っています。



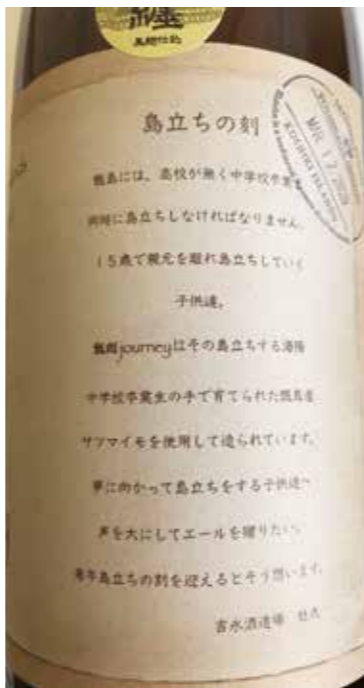
焼酎の名前も、当時の卒業生である子どもたち自身により、吉永酒造の代表的銘柄の「甌島」に、船旅など、比較的長い「旅」や、ある段階から次の段階への道のりを意味する「journey(ジャーニー)」をつなげて、「甌島journey」と名付けられました。



今年、海陽中学校の3年生を中心に生徒22人が耕した畑で大事に育てたサツマイモが、甌島での思い出を封じ込めた千本の焼酎「甌島journey」へと生まれ変わりました。

卒業記念に子どもたちに1本1本贈られる「甌島journey」はまさに、「世界でただ一つのだけの焼酎」なのです。

ふるさとへの優しさと思いがたつぷり詰まったその焼酎の味は、果たして甘いのか辛いのか、それを感じられるのは、島を立ちいろいろな経験を積んで大人になった時のこの子どもたちだけです。



子どもたちにエールを

将来、甌島に帰ってくることは、旅立つ今は考えられませんが、たくさんの人に甌島の良さを知ってもらいたいと願っています。

そのためには、もっと甌島のことを知りたいなと思います。

今年、甌島から32人の子どもたちが、不安と期待を胸に本土の高校へ向けて島立ちをしました。

心配するご両親をよそに意外にもワクワクが止まらない好奇心に溢れた子どもたちが印象的でした。

これから、島では経験できないたくさんさんの経験を積み、時には島では考えられなかった苦難や壁にぶつかることもあるでしょう。

一緒に島立ちをした仲間たちと手をつなぎ、「島立ち」という言葉の意味と甌島で過ごした日々を時々思い出し、今の自分が甌島のために何ができるか、将来甌島のために何ができるか、そんなことも考えられる大人になってもらえたらと思います。



- 海陽中学校卒業生
- ・中村 郁水
  - ・濱田 ほのか
  - ・植村 隼也
  - ・江口 健太
  - ・大毛 かや
  - ・福元 麻友
  - ・川畑 佳輝